

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	浦添市児童発達支援センターたんぼぼ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 17日		～	2025年 5月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	115名	(回答者数)	95名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 17日		～	2025年 5月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園であるため、保護者の困り感に寄り添いながら家族支援を含めたサポートができること	・日頃から保護者とコミュニケーションを取り、些細な困りごとともキャッチしながら必要な支援につなげていく。運営主体が社協であることやこれまでの行政、関係機関とのつながりを活かして家族支援を行っている。	・職員間でしっかり情報共有を図り、支援の方向性に違いが出ないように、スピーディーに対応、つなぎができるようにしていく。
2	様々な玩具や道具、教材があり、たくさんの遊びを提供できること	・クラス担任が週報に沿ってプログラムを考えるが、様々な遊びが経験できるように工夫している。	・特に登園回数の少ない親子については遊びが偏らないように気をつける。遊びを繰り返し行う場合はその目的もしっかり説明していく。
3	保護者同士のつながりを作ることができる	・親子通園で一緒に活動する中で保護者同士が関係性を築くことができる。コミュニケーションが苦手な保護者もいるが、職員が間に入りながら少しずつ交流できるようにサポートしている。	・クラス毎での活動が多いため他のクラスの保護者との関わりが少なくなってしまうので、クラスを超えた交流ができるように仲介していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園等との併用組が増え、登園回数が少ない親子への支援	・併用している保育園の行事等や保護者の仕事の都合で登園回数が確保できない時がある。	・通園することのメリットを感じてもらえるような保育、療育内容や相談体制の充実を図り、「早くたんぼぼに行きたい」と思ってもらえるように工夫しながら、少なくとも月4回は利用を促していく。
2	保護者同士の交流の場を持ちたいが、登録人数が多く一斉に交流することができない	・保護者が交流の機会を求めているが、交流する対象を絞らなければならない現状もありなかなか開催できていない。	・親の会を活用しながら職員が主導で計画するのではなく、保護者自身が計画できるようにサポートすることで機会を増やしていく。 ・OB、OGとの交流会も行事として全体で開催しようとするのが難しいので、各クラス毎で必要に応じて計画していく。
3	漏れのない情報共有	・登園回数が週1日～2日の親子が多いため、避難訓練やイベントを実施してもそこに参加できないことがあったり、登録人数が多く情報の伝達が行き届いていないことがたまにある。	・実施した避難訓練やイベントについては掲示してお知らせしているので、その案内もして情報を目にもらえるように気をつける。 ・クラス毎にお知らせ状況を把握していることが多いが、全体ミーティングの中でも共有し漏れがないようお互いでチェックし合えるようにする。